

第26回 B I R D 脳科学セミナー

正常タウの解析から認知症脳における タウの異常性を考える

演者: 宮坂 知宏 先生

同志社大学生命医科学部・医生命システム学科 准教授

日時: 2020年 11月9日 (月) 16:30~18:00

オンライン (Zoom) 開催

微小管結合タンパク質・タウは、チューブリン重合の促進あるいは微小管の安定化を促す因子とされている。一方タウは、アルツハイマー病などの認知症に認められる特徴的な病理所見の一つ、“神経原線維変化”の主要構成成分であり、神経変性の鍵とされるタンパク質である。タウは生涯にわたって神経細胞に発現する常在タンパク質であり、通常神経細胞に障害を与えることは無い。しかし、加齢に伴う何らかの原因によりタウが“異常性”を獲得し、自身の細胞を攻撃すると考えられる。では、どのようなタウの異常性が認知症を引き起こすのか？その本質は未だ不明である。

これまでに、病態脳に蓄積したタウの解析から様々なタウの“異常性”が報告されてきた。これに対し、実は正常脳におけるタウの存在様式に関する情報は乏しく、あまり分かっていなかった。そこで我々は正常タウを解析することで、神経変性の原因となるタウ異常化の本質を見出そうと研究を進めている。本講演では、我々が最近手がけたタウの神経細胞内局在に関する研究成果を中心に紹介する。さらに、これまでの研究成果をもとに、改めて正常タウが異常化するメカニズムについて、独自の仮説を紹介させていただく。

Kubo A et al. J Comp Neurol. (2019); Kubo A et al. J Neurosci. (2019); Iwata M et al. Mol Biol Cell. (2019)

本セミナーは学部生、大学院生の聴講も歓迎します

主催: 脳学際研究部門 (Brain Interdisciplinary Research Division)

東京理科大学における脳研究の学際的な連携基盤の構築を目指し2016年度に発足。
学内の理一・工一・基礎工・理工・薬学部・生命研および学外の研究機関から構成される。

世話人: 生命医科学研究所 中村岳史 (野 6140) tnakamr@rs.tus.ac.jp

本講演は公開セミナーです。聴講希望の方は世話人までメールでご連絡ください。
必要な情報を折り返しお伝えします

